

## 標準委員会 第3回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2009年6月3日（水） 10：00～12：00

2. 場 所 航空会館801会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 岡本（部会長），萩原（副部会長），吉田（幹事），山口，木下，堺，市川，上野，石塚，大山，西田，堀田，山内，沼田（邦），沼田（博），笠原，宮坂（17名）

（代理出席委員）坂本（平山代理），浦上（堀川代理）（2名）

（欠席委員） 越塚，岩崎，石川（真）（3名）

（常時参加者）（0名）

（傍聴者） 石川（智），田中（2名）

（事務局） 岡村，谷井

4. 配付資料

配付資料

ATC3-1 前回議事録（案）

ATC3-2-1 「原子力施設の廃止措置の計画（改定案）」指摘事項対応表

ATC3-2-2 「原子力施設の廃止措置の計画：200x」（改定案）

ATC3-3-1 学会標準「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準：200x」の標準委員会書面投票の結果と対応

ATC3-3-2 「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準：200x」（改定案）

ATC3-4-1 日本原子力学会標準「放射線遮へい計算のための線量換算係数：2004」の改訂について

ATC3-4-2 「放射線遮へい計算のための線量換算係数：200x」（改定案）

ATC3-5 有効高さ評価モデル分科会の活動状況

ATC3-6 第1回シミュレーションの信頼性検討タスク議事録（案）

参考資料

ATC3-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿

ATC3-参考2 標準委員会の活動状況

ATC3-参考3 基盤・応用技術専門部会における標準策定スケジュール（案）（至近3年）

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員22名中、代理委員を含めて19名が出席しており、決議に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC3-1）

前回議事録（案）については、事前に送付済みであり承認された。

(2) 「原子力施設の廃止措置の計画（案）」の標準委員会書面投票の結果と対応について（ATC3-2-1～2）

岡本主査より、資料ATC3-2-1～2を用いて標準委員会書面投票の結果並びに反対意見等への対応（案）の説明が行われ、審議の結果一部修正して委員に配布することを前提に対応（案）が決議された。また、再投票等になった場合には、メール審議等を活用することを標準委員会に提案することとなった。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 今後の手続きはどうか。
  - まず専門部会で対応（案）について承認し、標準委員会で審議されるが、反対意見が解消されるか、さらに技術的な修正か編集上の修正かによって再投票が必要かどうかが変わってくる。ただし、専門部会において再投票が必要かどうかは規約にははっきり書かれていない。そこも含めて標準委員会にて判断される。
- ・ 要求事項を明確化したとのことだが、判断基準はどこにあるのか。
  - 附属書Hの表H. 4に判断のめやすとして記載している。
- ・ 構成を見直していることが編集上の修正であることの説明が、本日の資料では不十分である。また、反対意見への回答も、個別に具体的な回答が必要である。
  - 反対意見を出した委員には個別に説明している。資料の記載は不十分であり補足する。
  - 附属書（参考）を規定化すべきとの意見に対して、附属書H等は（参考）で良いのか。
  - 廃止措置の経験はまだ2件。具体的な事項については固まっていない部分もあり、仕様規定までできないものもある。将来の改定で対応する予定。反対意見を出した委員には理解していただいた。編集上の修正であることの説明資料と対応（案）を修正し、電子メールにて送付する。
- ・ 判断のめやすは、あいまいではないか。火災対策など米国の基準では詳細に書かれている。
  - 今回は、「廃止措置の計画」の標準であり、「廃止措置の実施」の標準では詳細に記載する予定。

(4) 「風洞実験実施基準（改定案）」の標準委員会書面投票の結果と対応について（ATC3-3-1～2）

沼田（邦）委員より、資料ATC3-3-1～2を用いて標準委員会書面投票の結果並びにその他意見に対する修正案の説明が行われ、審議の結果回答並びに解説の一部修正を前提として修正案が決議された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 数値シミュレーションに関する記載が削除されたが、附属書も含めて全てか。
  - 既に別に数値シミュレーションの分科会が活動しているので、全体としての整合性を考えて附属書からも削除することとした。
  - 委員のコメントに誤解があるように見える。それによって誤解が解ければ記載を

削除しなくても良いのではないか。適用範囲から削除するのはともかく、附属書Aに記載があっても良いのではないか。

→ 使用方法は理解していると思う。適用範囲の1行でシミュレーションが使えることになるのは不適切というコメントであり、何度も指摘されていて附属書に残すことも難しい。解説に移すこととしたい。

→ 解説に、背景や経緯などを書くこと。

- ・ シミュレーションについての意見を出した委員は、風洞とシミュレーションが同列であると誤解しているのではないか。シミュレーションはあくまでも補助的なものであり、そのような説明をすべき。ちゃんとした回答を書く必要がある。

→ 今回の改定の中では重要なポイントである。少なくともコメント回答はしっかり書くべき。

- ・ 委員のコメントに、単独建屋で結果が合ったからといって複数建屋で合うとは限らないとあるが、回答できるのか。

→ 標準作成時点で、公開された文献としては単独建屋の場合しかないが、別に複数建屋の場合も検証されている。

- ・ 解説の見直しと対応（案）の見直しを行い、委員に送付すること。

(5) 【中間報告】「放射線遮へい計算のための線量換算係数（改定版）」（ATC3-4-1~2）

放射線遮蔽分科会の坂本副主査より、資料ATC3-4-1を用いて「放射線遮へい計算のための線量換算係数（改定版）」（案）の改定の主旨、方針、内容について説明が行われ、次回標準委員会に中間報告することが認められた。

(6) 有効高さ評価モデル分科会の活動状況（ATC3-5）

有効高さ評価モデル分科会の分科会代表者である沼田（邦）委員より、資料ATC3-5に基づき分科会の活動状況が報告された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 数値解析標準の策定については、シミュレーションの信頼性検討タスクと良く連携して進めること。

(8) シミュレーションの信頼性検討タスクの活動状況（ATC3-6）

シミュレーションの信頼性検討タスクの堀田幹事より、資料ATC3-6に基づき第1回タスクの審議内容が報告された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ A I A AのV&Vは外挿しないということだが、A S M E等とは違うのか。

→ A I A Aの方が作成時期が古く、検証した範囲と予測と外挿を明確に定義していないため。A S M Eの方でもC F D関連のガイドラインを作る動きがあり、そちらでは区別が明確になされると思われる。

(9) 標準委員会の活動状況について（ATC3-参考1~3）

- ・ 事務局より、ATC3-参考2に基づき、標準委員会の活動状況が報告された。

主な質疑は以下の通り。

- 活動スケジュール（ATC3-参考3）の中で、FBRについてはどうなっているのか。  
→ どのような形で報告するか検討している。標準化については時間がかかりそうであるので、スケジュール表は見直したい。

(10) その他

次回専門部会は、8月末頃とし、別途日程調整を行うこととした。

以上